

沖縄県国頭村の森林の戦前・戦後史 —貴重な生き物が生息する森の履歴—

○齋藤和彦（森林総研関西・北大院農）

はじめに

この研究の目的は、沖縄やんばる（沖縄島北部）の森林管理を巡る合意形成のために、その中核地域である国頭村の戦前・戦後の森林環境史を明らかにすることである。

当地は、ヤンバルクイナ他、貴重な野生生物の宝庫であると同時に、琉球王国時代からの沖縄の林業地でもある。当地の森林管理を巡っては「自然林を守れ」、「昔はもっと伐っていた。それでもクイナは生き残っている」という論争が続いている。この議論から脱し、次のステップに進むには、貴重な野生生物が暮らす森の履歴を解明する必要がある。

調査方法

時期区分は、琉球王国期／旧慣期／近代林政期／米軍統治期／戦後林政期の5つとした。分析では、まず、森林管理や森林利用に関する情報を既存文献や聞き取り調査で収集し、その情報を地図や空中写真を用いてGIS上で空間的に把握し直した。

結果と考察

当地の森林は、琉球王国期に管理基盤を確立し、質を高めたとされるが、旧慣期の社会変化で劣化した。その後、近代林政期に一部、立て直しが図られたが、米軍統治期の戦後復興で再び劣化した。本土復帰後の戦後林政期は、残った奥地天然林で皆伐が進み、自然保護問題が激化した。近年、森林蓄積は回復し、「自然林」と見なす向きもあるが、人と野生生物が暮らしてきた森の履歴を理解し、その履歴を考慮した森林管理が求められる。

時期区分	琉球王国 ～1878	旧慣 1879～1907	近代林政 1908～1944	米軍統治 1945～1971	戦後林政 1972～	
需要	大径材 (首里城・船)	小径材 (家屋、燃料)	← (")	← (燃料、支柱)	制約なし (パルプチップ)	
里山	農地・切替畑	←	←	←	森林化	
杣山 (近) ↓ (遠)	高蓄積・ 優良樹種林	形質不良林 (細、曲、節)	形質不良林 (細、曲、節) ／仕立直し	開墾(細)	開墾(広)	
		優良天然林	←	形質不良林 (細、曲、節)	高齢化	ダム
		開墾(点)	←	若齢化	←	
			←	←	←	

図1 沖縄県国頭村の森林利用と森林環境の変遷

キーワード：やんばる，環境史，GIS

(連絡先：齋藤和彦 skazu@affrc.go.jp)